

日本語教科書における外来語成分を含む混種語の調査分析

—日本・台湾・韓国の教科書を中心に—

林 慧 君*

1. はじめに

語彙力は言語能力を計る一つの目処としてよく立てられるが、その語彙力のアップに、語形、語構成などの観点からの教育と学習が役立つと考えられる。例えば、「ソフト」という外来語に関する教育は、語としてのそれ自身以外に、「ソフトコンタクトレンズ」「アプリケーション・ソフト」といった、「ソフト」が前項・後項に位置する複合語、更には「日本語入力ソフト」などのような「ソフト」を含む混種語も効率的に覚えていけることにつながる。つまり、語基の外来語から始め、それを含む合成語をどんどん覚えていくことは、語彙の増加に有効的に働くと考えられる。

本研究では、日本語教科書における外来語成分を含む混種語（以下「混種語」と称す）を研究対象に取り上げることにした。その理由としては、日本語学習者の外来語語彙力をアップさせるにはその外来語一語だけでなく、外来語成分を含む複合語も身につけさせることが大事だと考えられるからである。その外来語成分を含む複合語とは、外来語どうしの結合による外来語の複合語以外に、「バイキング料理」「高層ビル」などのような、外来語と漢語成分が結合する混種語も含まれる。表音文字のカタカナ外来語と表意文字の漢語が相性よく結合する混種語が多く、かなり特殊であり、日本語と韓国語にだけあって他の外国語にはないという¹。

本研究が対象とする教科書は、まずは日本で編纂されたものを軸に据え、台湾人向けのものや韓国人向けのものなどを追加し比較する。従来の日本語教科書における語彙調査の比較研究では主に日本と台湾または日本と韓国という二者比較が多く、三ヶ国の教科書を比較するものはまれである。

具体的には、まず、三ヶ国の初・中・上級の教科書の混種語をピックアップした後、様々な角度から三ヶ国の教科書に出現する混種語を比較する。

次に、外来語語基及びその結合対象の漢語・和語語基の語構成的な性質の論述を通して日本語教科書における混種語の構成要素の特徴や問題点を論じる。更に、日本語学習者に対する混種語の語彙教育への可能性をも探ってみたい。

2. 調査概要

まず、三ヶ国の教科書の選定に当たり、それぞれの初・中・上級レベルのものを2冊以上選ぶ。詳しくは次頁の表一を参照されたい。日本の教材は3種12冊、台湾の教材は6種14冊、韓国の教材は4種8冊、計13種34冊ある。

対象語選定の際、固有名詞成分を含む場合は、混種語全体が固有名詞になるものは対象外にし、一般名詞として使われる場合のみを分析対象に入れる。例えば、「フランス革命」は対象外とし、「フランス料理」は調査対象とした。

調査対象の混種語（異なり語数）は、日本は392語、台湾は161語、韓国は151語あって日本の教科書に混種語が最も多く、台湾や韓国の2.5倍

*台湾大学・教授

表一 選定した三ヶ国の教科書

出版地	レベル	種類	書名	出版社	出版年度
日本	初級	みんなの日本語	みんなの日本語初級Ⅰ	スリーエーネットワーク (大新書局)	1999
			みんなの日本語初級Ⅱ		1999
			みんなの日本語進階Ⅰ		1999
			みんなの日本語進階Ⅱ		1999
	初級	学ぼう！日本語	学ぼう！日本語基礎1	株式会社専門教育出版 (尚昂文化)	2006
			学ぼう！日本語基礎2		2006
			学ぼう！日本語基礎進階1		2007
			学ぼう！日本語基礎進階2		2007
			学ぼう！日本語初中級		2006
			学ぼう！日本語中級		2007
			学ぼう！日本語中上級		2009
	中～上	国境を越えて	国境を越えてⅠ	新曜社（致良出版社）	2005
			国境を越えてⅡ		2006
台湾	初級	通識基礎日本語	尚昂文化	2008	
		新日本語入門		2004	
		e世代日本語	e世代日本語1	致良出版社	2001
	e世代日本語2		2002		
	e世代日本語中級1		2009		
	初～中	輕鬆學日語	輕鬆學日語入門篇Ⅰ	致良出版社	2007
			輕鬆學日語入門篇Ⅱ		2006
			輕鬆學日語初級篇		2009
			輕鬆學日語中級篇		2010
	中～上	日語精讀教材	日語精讀教材上	致良出版社	2000
日語精讀教材下			2001		
教養日本語		教養の日本語 中高級教材	致良出版社	2011	
		教養の日本語 高級教材		2009	
韓国	初級	ワイズ日本語入門	ワイズ日本語入門1	사람in	2009
			ワイズ日本語入門2		2009
	初～中	タラグォン日本語読解	タラグォン日本語読解－初級から中級へ－	다락원	2011
			タラグォン日本語読解－中級－		2012
	上級	人文科学と日本語の接点	名言読解日本語 ストーリーで読む有名人の言葉1	도서출판 문	2008
			名言読解日本語 ストーリーで読む有名人の言葉2		2008
上級	人文科学と日本語の接点	人文科学と日本語の接点 総論編	高麗大学校日本研究センター	2012	
		人文科学と日本語の接点 各論編		2012	

前後である。混種語の導入は日本の教科書の方が積極的だと言えよう。

次に、三ヶ国の教科書の混種語を比較分析するが、三ヶ国の教科書に共通して出ている語（A）、二ヶ国に出ている語（B）、一ヶ国の教材にのみ出現している語（C）に分けてまとめると、表二のようなになる。

表二からわかるように、A類は僅か16語（3%）

表二 国別教科書の出現による分類

パターン	国	混種語（全620語）
A：三ヶ国の教科書ともに出現（3%）	日台韓	16
	台日	24
B：二ヶ国の教科書に出現 52（8%）	日韓	19
	台韓	9
	日	333
C：一ヶ国の教科書にのみ出現 552（89%）	台	112
	韓	107

しかなく、一番多いC類が552語（89%）も占めている。B類は、台湾と日本、日本と韓国、そして台湾と韓国の三つのタイプが含まれるが、これらを併せてもせいぜい52語（8%）だけである。というわけで、三ヶ国の教科書に互いに共通する混種語は意外に少ないと言えよう。以下、A・B・Cの三類の出現レベルからの特徴と、混種語の構成要素の外来語語基及び漢語・和語語基の語構成的な考察を通して、日本語教科書の混種語について論じたい。

3. 考察分析

3.1 教科書出現レベルから

A・B・Cの三類について教科書出現レベルから考察するが、教科書出現レベルとは、初回導入時のレベルを言う。例えば、初・中級ともに出ている場合は初級からの導入だと考える。

まず、三ヶ国の教科書に共通して出ているA類の混種語は、「アメリカ人」「キリスト教」「グローバル化」「スペイン語」「タイ語」「ドイツ語」「フランス語」「ポルトガル語」「ラテン語」「ロシア語」「クラシック音楽」「テレビ番組」「マラソン大会」「電子レンジ」「省エネ」「消しゴム」とわずかに16語しかない。そのうち外国名を構成要素とするものが半分（8語）も占めていることが特徴的である。この16語は日本語教育を考える際に基本的な混種語語彙だと言えよう。

この16語の、各国の教科書における導入レベル別の語数の内訳は次の通りである。

日本：初8、中7、上1

台湾：初7、中2、上7

韓国：初3、中10、上3

A類の混種語は日本の教科書においては割と早く導入され、初・中級の段階でほとんど導入済みと考えられる。一方、台湾の教科書は、初級レベルでの導入は日本とさほど変わらないが、中級での導入は急に鈍くなる。それに対し、韓国の教科書

は、初級からの導入は少ないが、中級レベルからの導入は急増する傾向が見られる。

次に、二ヶ国の教科書に出ているB類の場合は、日本と台湾、日本と韓国、台湾と韓国の三つのタイプに分けて見ていこう。

【日台】

日本と台湾の教科書にともに出ている混種語は「バス停」をはじめ、「クローン人間」「半ズボン」「老人ホーム」「窓ガラス」など24語ある。教科書導入レベル別の語数の内訳は次の通りである。

日本：初10、中8、上6

台湾：初8、中4、上12

日本と台湾の教科書は初級段階で導入した混種語の数はそれほど変わらない。以後、日本の教科書での導入は緩やかに減っている。しかし、台湾の教科書は中級での導入例がはっきりと減って、上級に入ってからまた増えている。B類もA類と同じく、台湾の教科書では、中級レベルでの導入がもっとも少ないV字型（谷型）になっていることがわかる。

【日韓】

日本と韓国の教科書にともに出ている混種語は「サービス業」をはじめ、「スポーツ選手」「金メダル」「携帯メール」など19語ある。教科書導入レベル別の語数の内訳は次の通りである。

日本：初4、中13、上2

韓国：初1、中11、上7

日韓の教科書にともに出ている混種語は初級からの導入は少ないが、中級から導入したものがもっとも多く、逆V字型（山型）をしていることが見て取れる。

【台韓】

台韓の教科書にともに出ている混種語は「チェーン店」「オランダ語」「センター試験」「バブル経済」「プロ野球」「ヒートアイランド現象」「新歓コンパ」「金融システム」「商社マン」と9語しかなく、少ない。教科書導入レベル別の語数の内訳は次の通りである。

台湾：初2、中2、上5

韓国：初1、中5、上3

上から、台湾の教科書では上級になって初めて導入された混種語がやや多いが、韓国の教科書では中級からのものが多い。

それから、一ヶ国の教科書にのみ出ているC類を見ると、教科書導入レベル別の語数の内訳は、次の通りである。

日本：初36、中228、上69

台湾：初36、中15、上61

韓国：初10、中50、上47

上記の調査結果から、まず日本の教科書にのみ出現の混種語語彙は初・中級の段階で80%近くが導入済みであり、特に中級に集中していることがわかった。

一方、台湾の教科書にのみ出現の混種語語彙において日本との一番の違いは、中級レベルからの導入具合である。台湾の教科書では中級からの導入数がかかなり少なくなるが、上級に上がると急に増えて、その割合は台湾C類の54%を占める。ここでまた、台湾の教科書における混種語の導入が、中級の段階では非常に消極的であることを再度確認できる。

次に、韓国の教科書にのみ出現の混種語語彙は初級の段階では日本・台湾と違ってかなり少ないが、中級になると急増して上級でもまた多数の語彙を導入していると見られ、中・上級二つの段階での導入数が91%も占めている。

以上、教科書出現レベルからの考察をまとめ直すと、日本の教科書の混種語語彙は初・中級の段階でかなり多く導入され、特に中級に集中しているとわかった。この日本の教科書における混種語を軸に据え、台湾の教科書の混種語を比較してみると、A・B・Cの三類とも、初級の段階では日本とあまり差がないが、中級に入ると急激に落ちてきて、上級に上がるとまた増えて追い付こうとする傾向（V字型）が捉えられた。一方、韓国の教科書における混種語の導入は、初級の段階では

少ないが、中級に入ると急増すること（逆V字型）が見受けられた。

要するに、日本語の教科書における混種語導入の様相は、日本と台湾と韓国において三国三様であることがわかった。

3.2 構成要素について

日本語学習者の語彙習得を考えると、語構成の観点を考慮に入れた教育も効率的で役に立つと思われる。造語力のある構成要素を把握し、その造語パターンなどを学習していくのが語彙力アップにつながると考えるからである。以下、混種語の外来語語基とその結合対象の語基とに分けて分析する。

3.2.1 外来語語基について

今回収集した教科書の混種語に見られる外来語語基は異なり語数で360例であった。これらの外来語語基を対象に、その造語数、結合位置、そして学習レベルの観点からA・B・C三分類をまとめて調査して論じる。

まず、どのような外来語語基が教科書の混種語に用いられやすいのかを、その造語数で検討することにした。調査した結果を表三に示す。

表三 外来語語基の造語数

造語数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	11	12
語基数	253	54	26	12	3	4	1	2	2	1	2

表三から、造語数が1か2の外来語語基が最も多く併せて85%も占めており、教科書に用いられた混種語の外来語語基はあまり生産性がないことが窺えた。この点だけから考えると、学習者が混種語を習得するのに数多くの外来語を覚えておく必要があるとも思われる。

一方、造語数が6以上ある、造語力が比較的認められる外来語語基は「クラス」「クローン」²「サービス」「システム」「センター」「テレビ」「バ

ス」「ブーム」「ボランティア」「マナー」「ラーメン」「ロボット」と、計12個挙げられる。これらの、日本語教科書の混種語によく用いられる外来語語基は、学習者の外来語語彙習得には欠かせない語と言えよう。なお、これらの外来語語基による多種の混種語例は、三カ国の中では日本の教科書に比較的に多く見られることも認められるが、学習者の混種語語彙学習の面からして、台湾と韓国の教科書より日本の教科書の方が高効率と言えようか。

また、外国名の外来語語基による混種語が多く見られることも、一つの傾向として指摘できる。しかも、一つの外国名が多くの漢語語基と結合している場合が多く、例えば「イタリア語」「イタリア製」「イタリア料理」「イタリア人」などが見られる。外国名が混種語の造語に積極的に用いられていることは、外国人向けの日本語教科書ならではの特徴の一つとして挙げられよう。

次に結合位置の観点から外来語語基について考えてみよう。外来語語基が混種語のどの要素として位置するのかを調査した結果は、次の表四になる。

表四 外来語語基の結合位置

結合位置	前項	後項	前項＝後項
語基数	213	126	21

表四の「前項」というのは、外来語語基が混種語の前項にのみ位置するか、前項に位置する例が断然多い場合をさす。「後項」というのはその逆である。「前項＝後項」というのは今回の調査でちょうど前項と後項に位置する例が同じ場合をさす。上の表四から、外来語語基は後項よりも前項に位置しやすい傾向（60%）が捉えられる。このことから、教科書の混種語においては、類概念を表す漢・和語基の主要素に比して、外来語語基が修飾や限定の機能を果たす修飾要素になる用法が多く採択されていると言える。例えば、「映画」と

いう漢語語基に対し、「ホラー映画」「アクション映画」「アメリカ映画」などのように様々な外来語語基が後項の主要素「映画」に対して内容などの側面から修飾・限定をするわけである。

ところが、前掲の造語数多数の12個の外来語語基は、「～クラス」「～サービス」「～システム」「～センター」「～ブーム」「～ラーメン」「～ロボット」のように、後項に位置しやすいの多いことも特徴的である。つまり、全体の傾向として外来語語基は混種語の前項に位置しやすいが、生産性の高い外来語語基は逆に複合語の類概念を表す後項要素になりやすいのである。例えば、もっとも多い12個の造語例をもつ「ラーメン」は、「博多ラーメン」「北海道ラーメン」といった固有地名と結合し、混種語の主要素になる。この「～ラーメン」の混種語例はいずれも台湾の教科書にのみ出現し、台湾人のラーメン好きの性格が反映されていることも窺える。他に「ロボット」も主要素の後項になり、「産業ロボット」「家庭用ロボット」などのような様々な種類のロボットを表す混種語を造り上げている。

なお、本稿の分析対象は教科書の語彙なので、教科書の混種語に用いられる外来語語基が日本語教育上のどの学習レベルの語なのかを調べてみた。『新訂 品詞別・1級～5級別1万語彙分類集』に準拠して調査することにしたが、当語彙分類集は『日本語NAT-TEST』と『日本語学力テスト』に基づき、日本語学習時間による級分類を次のように分けている³。なお、当語彙分類集に収録されていない語は「級外」にし、1級よりも更に高いレベルと考えられている。

級外：語彙分類集に収録されていない

1級：1000時間程度の上級

2級：800時間程度の中級後半

3級：600時間程度の中級前半

4級：400時間程度の初級後半

5級：200時間程度の初級前半

今回収集した混種語の中から、レベルごとの外来

語語基（下線で記す）及びそれによる混種語の造語例を少し挙げる。

級外：「技能ニーズ」「ハイブリッド車」

1級：「ヒット商品」「タイル貼り」

2級：「健康ブーム」「マイナス思考」

3級：「大手メーカー」「マラソン大会」

4級：「メモ用紙」「レジ袋」

5級：「白ワイン」「電子ピアノ」

これらの外来語語基360個について、その学習レベルを調べた結果を示すと、表五になる。

表五 外来語語基の学習レベル

レベル	級外	1級	2級	3級	4級	5級
語基数	189	21	23	31	47	49

表五から、今回抽出した、混種語に用いられている外来語語基は、級外の語が一番多い（53%）とわかった。つまり、上級の日本語学習者向けの語としても選定されていないレベルの外来語なわけである。一方、レベルの低い4と5級の語も級外の語彙ほど多くはないものの、併せて1/4強の27%も占めている。中間レベルの2と3級（15%）はやや少ない。このことから、日本語教科書における混種語の外来語語基は難しい語か易しい語かの両極化の様相を呈していることが明らかになった。

3.2.2 漢語・和語語基について

今回調査した日本語教科書における混種語では、外来語語基と結合している対象としてもっとも多いのは二字漢語語基であった。その外来語語基と二字漢語語基との結合例を少し挙げよう。例えば、「～会社」（ex.「カード会社」「ガス会社」）「～選手」（ex.「サッカー選手」「スポーツ選手」）「～旅行」（ex.「グループ旅行」「スキー旅行」）「～番組」（ex.「テレビ番組」「コメディ番組」）「石油～」（ex.「石油ショック」「石油ストーブ」）などが見られる。この外来語語基と二字漢語との相性の良さは、拙稿（2003）で述べた、和製混種語における考察結

果と一致していると注目される⁴。

次に、一字漢語接尾辞的要素も教科書の混種語の造語に多く採用されていることが見受けられる。特に「一語」による造語が目立って多い。「一語」の前には様々な国名が結合してくる。他に「一人」「一製」も同じく、また前出の造語力のある二字漢語語基のうち「～料理」「～文字」も国の名前と結合する例がよく見られる。これらは外国人向けの日本語教科書ならではの特徴的な語構成パターンの一つと言える。他に造語機能を果たす一字漢語接尾辞的要素に「一化」「一代」「一車」「一地」なども挙げられるが、具体的な例に「グローバル化」「デジタル化」「バイト代」「タバコ代」「ハイブリッド車」「ワゴン車」「リゾート地」「ロケ地」などが見られる。

一方の和語語基は、漢語語基ほど結合相性がよくはないが、中には外来語語基との造語機能がある程度果たす和語接尾辞的要素も見られる。例えば「一屋」（ex.「クリーニング屋」「パン屋」）「一袋」（ex.「ビニール袋」「レジ袋」）「一型」（ex.「ピラミッド型」「ノート型（パソコン）」）「一色」（ex.「オレンジ色」「チョコレート色」）「一付き」（ex.「カメラ付き」「ラジオ付き」）などである。他に生産性を有する和語複合語基「一売り場」も挙げられ、例えば「ネクタイ売り場」「ワイン売り場」が教科書に出ている。

このように見てくると、外来語語基が漢語語基との結合例はもちろん、漢語接尾辞的要素と和語接尾辞的要素との結合例も、混種語の語彙教育と学習に重要な意味をもつと言えよう。

4. まとめ

以上の考察内容をまとめ直すと、日本・台湾・韓国の日本語教科書における外来語成分を含む混種語について次のようなことが言えるかと思う。

三ヶ国のうち、日本の教科書に出現する混種語が最も多く、混種語の使用は日本の教科書がもつ

とも積極的である。台湾と韓国の教科書は日本には及ばず、もう少し導入、語例などを増やすべきであろう。なお、三ヶ国共通の混種語は意外と少ない(3%)ことも確認できた。

なお、教科書の混種語導入の時期から見ると、日本の教科書は割と早く初・中級の段階で多数導入しているのに対し、台湾(V字型)と韓国(逆V字型)は特に中級段階での導入において、互いにまったく逆の様相を呈している。

構成要素の面から考えると、混種語の造語に用いられている外来語語基は多種多彩で、数も非常に多い。一方、一つの外来語語基による複数の混種語の造語例は、台湾と韓国は日本ほど多く採用されていないこともわかった。従って、学習者の混種語の学習効率をアップさせるためには、台湾と韓国の教科書は一つの外来語語基による複数の造語例の導入にもう少し積極的になる必要がある。

次に、結合位置の観点から、全体としては外来語語基は前項に位置しやすいが、生産性の高い外来語語基は逆に後項要素に位置しやすいことも見た。

更に、混種語の中に見られる外来語語基の半分以上が上級以上レベルの語であったことも特記に値しよう。これは、日本語学習者が混種語の学習を通して上級以上レベルの外来語を習得することができるという見方もできる。

なお、外国の国名がよく混種語の造語に用いられている。これは外国人向けの日本語教科書ならではの特徴であるが、その国名の外来語語基と結合する様々な混種語の学習を通して、外来語の習得はもちろん日本語の造語法の理解にもつながると言えよう。

一方、外来語語基と結合する対象になる漢語・和語語基を見ると、二字漢語語基がもっとも多く、次に一字漢語接尾辞と和語接尾辞的要素も多数用いられている。このことから、外来語を含む混種語の語彙習得では一字漢語接尾辞と和語接尾辞的

要素も抑えておくことが語彙力アップに役立つと考えられよう。

注

- 1 韓国語の混種語の例「팀장」(team長)は、外来語成分の前項要素と漢語成分の後項要素との結合である。
- 2 「クローン」はあまり基本的な語彙とは思われないが、話題性のある内容から、日本語教科書の混種語の構成要素に採用されたわけであろう。やや特殊である。
- 3 『新訂 品詞別・1級～5級別1万語語彙分類集』(2014)の凡例(5頁)を参照。
- 4 林(2003:180)を参照。

引用参考文献

- 饗場淳子(2005)「日本語教科書における外来語について—初級・中級教科書10種を資料に—」『日本語論叢』6
- 日本語NAT-TEST・日本語学カテスト運営委員会(2014)『新訂 品詞別・1級～5級別1万語語彙分類集』(株式会社専門教育出版)
- 林 慧君(2003)「外来語成分を含む混種語の和語・漢語成分について—翻訳混種語と和製混種語との比較から—」『台大日本語文研究』第5期
- 【付記】本稿は住友財団2012年度「アジア諸国における日本関連研究助成」による研究成果の一部である。